



阪神港海上コンテナ協会の理事会

「洗バン」待機解消へ

海コン協会 労組と協力、記録も

阪神港海上コンテナ協会（山口与嗣雄会長）は11月17日、神戸市灘区の兵庫県トラック総合会館で理事会を開き、大阪・南港でコンテナ返却時にターミナルから水洗いなどを求められ待機時間が発生しているとして、労働組合と協力して改善する方針を固めた。会員事業者の協力を得て待機時間のリスト作成にも着手する。

待機時間が発生しているのは、ターミナルへの返却時に輸入コンテナの水洗いなどを求められるのが原因。大阪港では労組とターミナルを運営する港運業者との間で「洗バン」と呼ばれる水洗いなどは海コン事業者の責任ではないとしてすでに合意しており、海コン車両が返却コンテナを輸送していくとターミナルは洗バンを指示することなく受け取るようになってきているという。

このため海コン協会は、コンテナ返却時に洗バンを要求された場合はすぐ連絡するよう、会員に通知、会員から連絡があった場合は労組に通報し、労組からターミナルに合意事項を徹底するよう求める段取りだ。海コン協会では洗バンを求められ待機時間が発生した場合のリストも作成、ターミナルの洗バン要求の実態把握を進める。

今後、夢洲第1、第2シャープールの門扉修復や警備カメラ設置も進めるが、山口会長（近畿木材運輸）は「シャープールのゴミがあまりにもひどい」として、利用各社にドライバーへの指導の徹底を要請する一方、役員らで清掃した

い考えを示した。